

## 情報リテラシー支援

高田 淳子

1

### 情報リテラシー支援(1): 7月16日(月・祝)

■7月16日(月・祝) 12:30-15:00  
<12:30-13:30 休憩10分 13:40-15:00>  
配布資料の確認

- 1.はじめに
- 2.講義の目的
- 3.講義のすすめ方
- 4.情報リテラシー支援
- 5.参考文献  
(^^) ちょっとだけリフレッシュタイム
- 6.グループワークについて
- 7.グループワーク:調べ方講座 企画書作成

2

### 情報リテラシー支援(2): 7月17日(火)

■7月17日(火) 9:00-11:30  
<9:00-10:00 休憩10分 10:10-11:30>

事務連絡

- 1.はじめに
- 2.グループワーク:調べ方講座 企画書作成と発表準備  
(^^) ちょっとだけリフレッシュタイム
- 3.グループ発表
- 4.質疑応答、情報交換
- 5.企画書の評価
- 6.講評、まとめ

3

### 1.はじめに 自己紹介

高田淳子(たかだ じゅんこ)

どのような情報源として活用できるでしょうか?

- ・1980年4月～ 神奈川県立高等学校の学校司書
  - \* 1990年代後半、図書館利用教育の必要性を考える  
日本図書館協会図書館利用教育委員会へ
- 1999年4月～ 神奈川県立図書館・県立川崎図書館司書
- 2017年3月 定年退職
  - \* 一番うれしかったこと、2番目にうれしかったことは?  
2017年4月～ 大学非常勤講師
- ・関心領域:公共図書館の情報リテラシー

4

### 1.はじめに 自己紹介

○1990年代後半の高校図書館で

行きたくなる、居心地のいい図書館→広報・環境整備  
使いやすい図書館→探しやすい配置、適切な案内の表示  
必要な本がある図書館→資料の収集・整理  
自館にない本や情報源の情報提供→レフェラルサービス  
図書館の使い方を知ってもらう。→図書館オリエンテーション  
具体的な質問にあった回答をする。→レファレンスサービス



卒業した後の生徒は・・・  
図書館の活用を知らないまま大人になる人も・・・

図書館の存在を知り、図書館の使い方を知るようになるには?  
オリエンテーションだけではなく図書館利用教育が必要かも・・・  
図書館利用教育委員会で「情報リテラシー」という言葉を知る。

5

### 2.講義の目的

2018年度ステップアップ研修(2)

テーマの内容と科目のねらい

2. 資料・情報との出会いを創出する

情報社会における図書館と図書館員のあり方について考えを深め、社会や地域における情報サービスの提供とその評価法を学ぶ。

- \* 2005年7月 中堅職員ステップアップ研修(2)  
「情報リテラシー育成支援」  
常世田良 講師

6

## 2. 講義の目的

### ○テーマの内容

情報リテラシー支援の意義と方法、支援の実際における計画や課題について学ぶ。

### ○科目のねらい

- ・情報リテラシー支援の方法、およびその評価法について学ぶ。
- ・支援対象やその属性を踏まえた計画立案について学ぶ。
- ・情報リテラシー支援実施後の評価の要点について学ぶ。

※具体的な支援対象を仮定したリテラシー支援計画の策定・討議等を通じた学びなどを適宜取り入れる

7

## 3. 講義のすすめ方

### ■講義

- ・情報リテラシーとは？
- ・情報リテラシーを支援するサービス

### ■グループワーク

- ・サービス計画立案・作成

### ■グループ発表

- ・情報発信

### ■企画書の評価

### ■講評・まとめ



各図書館の図書館員への情報提供と情報共有  
地域住民への広報とサービス提供

8

## 4. 情報リテラシー支援

### 講義の概要

- (1) 情報リテラシーとは
- (2) 図書館利用教育の変遷と情報リテラシー教育の展開
- (3) 公共図書館における情報リテラシー支援の現況
- (4) 公共図書館における情報リテラシーを支援するサービス
- (5) サービス展開の課題と可能性
- (6) 実践のヒント

9

## 4. 情報リテラシー支援 (1) 情報リテラシーとは

### ○「よくあるかもしれない・・・」から

- ・「情報」はわかるが「リテラシー」とは？
- ・図書館利用教育との違いは？
- ・どこの図書館でもやらなくてはいけないことなのか？
- ・公共図書館全体のサービス状況は？
- ・情報リテラシー教育と情報リテラシー支援とどう違うのか？
- ・手っ取り早く参考にできるような図書館はないか？

ほかには？？？

10

## 4. 情報リテラシー支援 (1) 情報リテラシーとは

### ○情報リテラシーとは

- ・「リテラシー」  
文字の読み書きの能力→さまざまな○○リテラシー  
参考 [「リテラシー - Wikipedia」](#) [food literacy](#)
- ・図書館における情報リテラシー教育への取り組み  
◇1989年: アメリカ図書館協会会長情報リテラシー諮問委員会  
による「最終報告」 [Final Report](#) が契機  
「情報リテラシーとは、情報が必要であるという状況を認識し、  
情報を効果的に探索し、評価、活用する能力」  
◇1993年: 日本図書館協会利用教育委員会が発足  
2001年: 『図書館利用教育ガイドライン合冊版』刊行

11

## 4. 情報リテラシー支援 (1) 情報リテラシーとは

### ○情報リテラシーの定義と普及について

- ・『図書館情報学用語辞典 第4版』より  
「情報リテラシー」(information literacy)  
“さまざまな種類の情報源の中から必要な情報にアクセスし、ア  
クセスした情報を正しく評価し、活用する能力。”
  - ・研究と文献
  - ・関連機関や団体  
例 文部科学省 日本図書館協会利用教育委員会
- ### ○「教育」と「サービス」
- ・公共図書館で行われることはすべて「サービス」  
\* 館種による用語の違い

12

#### 4. 情報リテラシー支援

##### (2) 図書館利用教育の変遷と情報リテラシー教育の展開

###### ○ICT社会と図書館サービスの変遷

- 「図書館の使い方」 \* 図書館の資料を提供  
(本や雑誌の閲覧・貸出、目録カードで検索)  
➡「図書館を使う力」  
(OPAC検索、データベース、図書館HPの活用)  
➡「情報を使う力」・・・「情報リテラシー教育」へ  
(図書館が提供する情報源の多様化と拡大:  
インターネット情報、オンラインデータベース)

【利用者自らが情報を獲得し評価し活用できる力を育成・支援】

13

#### 4. 情報リテラシー支援

##### (2) 図書館利用教育の変遷と情報リテラシー教育の展開

###### ○図書館利用教育と情報リテラシー

『図書館情報学用語辞典 第4版』より  
「図書館利用教育」

“図書館の利用者および潜在利用者の集団を対象に計画、実施される、組織的な教育的活動。文献利用指導や図書館オリエンテーションなどを含む。

図書館サービス、施設、設備、資料などの活用にかかわる知識や技能の修得を主な目的とするが、近年では、情報環境の変化などを背景に教育内容が拡大、多様化し、図書館を含むさまざまな情報(源)の効率的利用に必要な知識や技能(情報リテラシー)の修得を目指す種々の活動を包括する用語と解される。

利用者教育など同義に使われる用語は多く、教育の代わりに指導、案内、ガイダンスといった言葉も使われる。なお、同じ用語であっても、館種の違いなどによって、その意味するところは必ずしも同一ではない。”

14

#### 4. 情報リテラシー支援

##### (3) 公共図書館における情報リテラシー支援の現況

###### ○公共図書館と情報リテラシー支援

- ・ICT社会、生涯学習社会の進展  
生涯にわたる情報リテラシーの育成と向上が必要
- ・利用対象が不特定多数で年齢構成が幅広い
  - ➡集団に対して体系的に実施することは困難
  - ➡課題解決支援サービスの基盤としての必要
- ・公共図書館では?・・・「自分で調べる」を支援
  - ◇利用案内の配布、展示・掲示、図書館ツアー、OPAC・データベースの検索講座、調べ方講座・・・
  - ◇Webを活用したサービス  
パスファインダー、リンク集、レファレンス事例・・・
- ・関連調査について

15

#### 4. 情報リテラシー支援

##### (3) 公共図書館における情報リテラシー支援の現況

###### ○大学図書館

- ・参考例  
慶應義塾大学メディアセンター(図書館)  
「調べる・探す」タブ「学ぶ・読む」KITIE(レポートの書き方)

###### ○学校図書館

- ・学習支援を目的、集団教育が可能
- ・学校図書館ができることは?  
信頼性の高い情報を提供  
オリエンテーション等で図書館や情報の使い方を学ぶ  
授業の支援:教職員や児童・生徒への資料・情報提供  
\* 探究学習

16

#### 4. 情報リテラシー支援

##### (4) 公共図書館における情報リテラシーを支援するサービス

###### ○情報リテラシー教育<★情報のサイクル>

- ① (図書館の)印象づけ
- ② サービス案内
- ③ 情報探索法
- ④ 情報整理法
- ⑤ 情報表現法 (情報発信)

\* 『図書館利用教育ガイドライン』

###### ○情報リテラシーを支援するサービスの枠組みの明確化

- ➡公共図書館におけるサービス展開の具体的な方法

17

#### 4. 情報リテラシー支援

##### (4) 公共図書館における情報リテラシーを支援するサービス

###### ○試案

- ・サービスの名称  
「情報リテラシー支援サービス」  
情報リテラシーは利用者が自らの内に育むものであり、公共図書館はそれを支援する。サービスのあり方をより明確に表す名称
- ・サービスの定義  
「情報リテラシーの育成・向上を図るために公共図書館が支援するサービス」:集団と個人

\*「子どもや大人が情報活用能力の育成・向上を図るために公共図書館が支援するサービス」:個人利用者

18

4. 情報リテラシー支援  
(5) サービス展開の課題と可能性

○現状

- ・公共図書館の役割としての共通認識
  - \* 課題解決支援サービス
    - ➡ 個人の情報リテラシー育成・支援が基盤
- ・利用者が自分の力で必要な情報を獲得
  - ➡ 暮らしの満足度や教育、仕事等の達成度を高める。
- ・社会全体で情報リテラシーを支援する必要  
広い視点で公共図書館は何ができるか？
  - \* 各館種の図書館(大学、学校、専門)、学校教育、社会教育施設・・・

19

4. 情報リテラシー支援  
(5) サービス展開の課題と可能性

○これから

- ・公共図書館における情報リテラシーを支援するサービス
  - ◇用語 「情報活用能力」「情報リテラシー」等  
公共図書館としてのサービスの名称
  - ◇定義 さらに検討が必要
  - ◇内容 さまざまな実践が展開➡事例集
- ・公共図書館の共通認識 ⇔ ガイドライン、マニュアル 等
- ・確立・普及 ⇔ 組織として検討
- ・理論と実践

ほかには？

20

4. 情報リテラシー支援 (6) 実践のヒント

○過去の調査結果等から: 試行錯誤と工夫

- ・利用案内
- ・掲示 展示
- ・図書館ツアー
- ・パスファインダー・調べ方案内
- ・ショートセミナー「OPAC検索講座」「データベース入門」等
- ・講座 例「法令の探し方」、「美術資料の調べ方入門」  
「漢詩の調べ方入門」、レポートの作成方法、図書館活用講座、宿題の支援、地域資料の調べ方、健康情報・ビジネス情報の調べ方 ⇔ 暮らしとニーズ
- ・図書館招待やその他の講座との組み合わせ
- ・出張(出前)講座 学校等

21

4. 情報リテラシー支援 (6) 実践のヒント

○広報の方法から \*「言葉の力」

- ◇図書館
  - 「図書館の達人」「〇〇名人」「〇〇王」
  - 「図書館: 書庫探検ツアー」「図書館のお宝大公開」
  - 「ビジネス講座 : 15分でわかる! データベース入門」
  - 「なかがみが見える! 調べ方がわかる本の福袋」
  - 「夏休みの宿題応援隊」「就活 支援講座」
  - 「レポートの作成 入門講座」
- ◇本や雑誌のタイトル、電車の吊り広告、新聞の広告等  
「自分磨きの図書館術」「よくわかる・・・」「すぐ役に立つ・・・」  
「おもしろくってためになる・・・」「〇分でわかる・・・」

22

4. 情報リテラシー支援 (6) 実践のヒント

○ サービス展開の方法から

- ◇サービスの対象を絞る
  - ・年代: 子ども ヤングアダルト 大人 シニア 等
  - ・内容によって利用対象をわけると → 効果・効率
- ◇サービスの方法
  - ・レファレンスサービス、フロアワーク等の日常で
  - ・広報 内容: 利用案内、調べ方案内  
方法: 掲示、展示、配布物、インターネット
  - ・ショートセミナー、講座
  - ・学校との連携
  - ・他の機関との連携(タイアップ講座等)

23

4. 情報リテラシー支援 (6) 実践のヒント

○事前課題

- 「公共図書館における情報リテラシー教育の現況についての調査」
- ◇目的
  - ・現況把握
  - ・参考事例
  - ・実際にどのようなサービスの可能性があるかを知ってもらう。
  - ➡ 情報共有、サービスの可能性の検討
- ◇調査結果: まとめ

24